

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

<sup>8</sup>花嫁は、輝く清い麻の衣を着せられた。

この麻の衣とは、

聖なる者たちの正しい行いである。」

<sup>9</sup>それから天使はわたしに、「書き記せ。小羊の婚宴に招かれている者たちは幸いだ」と言い、また、「これは、神の真実の言葉である」とも言った。<sup>10</sup>わたしは天使を拝もうとしてその足もとにひれ伏した。すると、天使はわたしにこう言った。「やめよ。わたしはあなたやイエスの証しを守っているあなたの兄弟たちと共に、仕える者である。神を礼拝せよ。イエスの証しは預言の霊なのだ。」

<sup>11</sup>そして、わたしは天が開かれているのを見た。すると、見よ、白い馬が現れた。それに乗っている方は、「誠実」および「真実」と呼ばれて、正義をもって裁き、また戦われる。<sup>12</sup>その目は燃え盛る炎のようで、頭には多くの王冠があった。この方には、自分のほかはだれも知らない名が記されていた。<sup>13</sup>また、血に染まった衣を身にまとしており、その名は「神の言葉」と呼ばれた。<sup>14</sup>そして、天の軍勢が白い馬に乗り、白く清い麻の布をまとしてこの方に従っていた。<sup>15</sup>この方の口からは、鋭い剣が出ている。諸国の民をそれで打ち倒すのである。また、自ら鉄の杖で彼らを治める。この方はぶどう酒の搾り桶を踏むが、これには全能者である神の激しい怒りが込められている。<sup>16</sup>この方の衣と腿のあたりには、「王の王、主の主」という名が記されていた。

黙示録 11 章 15 節

さて、第七の天使がラッパを吹いた。すると、天にさまざまな大声があつて、こう言った。

「この世の国は、我らの主と、そのメシアのものとなった。主は世々限りなく統治される。」

【次回の大学礼拝】2018年12月11日（火）10時40分

次回の礼拝はヒンメリのお話しと楽器カンテレを使った演奏会です。義平大樹先生（循環農学類教授）・宮崎早花先生（循環農学類講師）・あらひろこ氏（カンテレ奏者）が担当してくださいます。あらひろこ氏は『ガルパン』のためにカンテレを演奏された方です。ご期待ください。

【前回の大学礼拝】2018年11月27日（火）

学生 187名 教職員ほか 18名 合計 205名

【大学礼拝週報】2018年度第26号（後学期第11号）

2018年12月4日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《大学礼拝》

司 式 高橋優子（キリスト教学教員）

奏 楽 佐藤理恵（野幌教会会員）

讃美指導 相原晴伴（循環農学類教員）

前 奏 「主を待ち望むアドヴェント」（ロール作曲）

讃美歌 讃美歌 106 番（あら野のはてに）

聖 書 ヨハネの黙示録 19 章 5-16 節

ヨハネの黙示録 11 章 15 節

祈 り

さんび

酪農学園大学聖歌隊

奨 励

「ヘンデル『メサイア』がクリスマスに演奏される理由」

高橋優子（獣医学類獣医倫理学研究室准教授）

報 告

讃美歌 讃美歌 111 番（神の御子は今宵しも）

後 奏 「戸を上げよ」（アーベル作曲）

【本日の聖書】黙示録 19 章 5-16 節

<sup>5</sup>また、玉座から声がして、こう言った。

「すべて神の僕たちよ、

神を畏れる者たちよ、

小さな者も大きな者も、

わたしたちの神をたたえよ。」

<sup>6</sup>わたしはまた、大群衆の声のようなもの、多くの水のとどろきや、激しい雷のようなものが、こう言うのを聞いた。

「ハレルヤ、

全能者であり、

わたしたちの神である主が王となられた。

<sup>7</sup>わたしたちは喜び、大いに喜び、

神の栄光をたたえよう。

子羊の婚礼の日が来て、

花嫁は用意を整えた。